

# 全国首長九条の会ニュース

2023年10月17日 第52号

ホームページ：<https://kubicho9jo.com/>

●連絡先：〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-5-7 神田中央ビル 303 九条の会気付 ☎03-3221-5075  
fax03-3221-5076 メール：[sppn3av9@hyper.ocn.ne.jp](mailto:sppn3av9@hyper.ocn.ne.jp) 郵便振替口座 00190-4-635731 (全国首長九条の会)

「第4回総会と市民のつどい」を下記の通り開催します。ZOOMも併用しますがぜひ会場においでください。

## 全国首長九条の会「第4回総会と市民のつどい」

◆日 時：2023年11月19日(日)午後1時半から午後4時半

◆会 場：明治大学リバティータワー 1011教室

◆費 用：資料代として1000円(リアル、ZOOM参加者ともに)

◆内 容：第一部「9条を空文化する安保3文書—戦争の危機は沖縄、そして全国に」をテーマに  
ディスカッションします

第二部 総会(方針提案、役員選出、会員の交流など)

今号は10月5日に行われた「九条の会大集会」の概要、澤地久枝さんのあいさつ、松下玲子さんの発言、田中優子さん、中野晃一さんのスピーチ要旨と9月9日開催の第12回「九条の会東北交流会」の報告です。

### 「九条の会大集会」に1200人

「九条の会」は10月5日、東京・なかのZERO大ホールで、「九条の会大集会—大軍拡反対！憲法改悪を止めよう」を開き、会場いっぱいの1200人をこ



える人たちが参加しました。

呼びかけ人で作家の澤地久枝さんがあいさつし、全国首長九条の会共同代表の松下玲子武蔵野市長が決意を語りました。実行委員会を代表して、小森陽一「九条の会」事務局長は、「この秋、岸田政権による改憲政治を許さない世論を広げる新たな運動をそれぞれの九条の会が展開して欲しい」と呼びかけました。

「九条の会」世話人の田中優子前法政大総長、市民連合運営委員の中野晃一上智大教授がスピーチ。「千住九条の会」の中田順子さん、「商社九条の会・東京」の仲内節子さん、「おだわら・九条の会」の金子あそみさん、総がかり行動実行委員会青年プロジェクトチームの高木陽介さんが発言しました。この大集会には、滋賀県首長九条の会の藤澤直広事務局長や全国首長九条の会の矢野裕事務局次長も参加しました。

(以下発言やスピーチの概要です。写真は、高島平九条の会・佐藤光信さんの提供です)

### 澤地久枝さん (作家・「九条の会」呼びかけ人)



私は「九条の会」の呼びかけ人の1人です。今年、大江健三郎さんが亡くなって、私1人が残っています。いま日本中にある「九条の会」が、最後のとりでのように日本国憲法を守り、特に9条を守っています。憲法をないがしろにした事態は次々に進んできていますけれど、まだ日本国憲法は生きて

います。日本は戦争をしない、戦争という手段は一切捨てる決めていて。この精神を守ろうという私たちは、岸田政権に対して「あなたのやっていることは間違えている」と表明していく必要があると思います。

世界のどこかで小競り合いが起きれば、それをきっかけに戦争になります。自分たちの命、わが子、わが孫の人間としての人生を守ろうと思ったら、異国の人たちともっと話し合わなければなりません。

私は腰椎を骨折していますが、93歳になっても立って、歩いて、戦争はしないという憲法9条は絶対に譲れないものとして次の子や孫の世代にちゃんと手渡していきたい。いいことばかりではないけれど、私たちは自分たちを信じて、もっと楽観的に、しかめっ面ではなく、笑っていきましょう」とスピーチしました。

## 松下玲子さん（武蔵野市長・全国首長九条の会共同代表）



武蔵野市は1944年11月24日、空襲を受けました。当時「東洋一」と言われた軍需工場を狙った空襲は戦争中9回に及びました。「悲惨な戦争を二度と忘れてはいけない」という平和の願いを込め、武蔵野市は条例で11月24日を「平和の日」、毎年11

月を「平和月間」と定め、市民とともに戦争の悲惨さ、平和の尊さを未来へつなげていく行動をしています。

武蔵野市がどんなにがんばっても、国が国民の生命と財産をないがしろにし、9条を捨て「戦争ができる国」にしてしまったら、何の意味もありません。岸田政権が進めようとしている軍事費の拡大では平和は訪れません。戦争も、核もない平和な社会を未来へ、子や孫、これから生まれてくる子どもたちにつなげていくためにも皆様とともに9条を守り、はぐくみ、生かしていく行動をしていきたいです。

## 田中優子さん（「九条の会」世話人・前法政大総長）

「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」を1月につくりました。なぜ女性たちの会なのか。戦前、女性は参政権を持っていませんでした。戦争に反対する女性は、それを表明することがほとんどできなかった。でも、いまはできるんです。そのことを私たちは自覚しました。きっかけは、昨年末に閣議決定された安保3文書です。「敵基地攻撃能力を持てる」「5年間で43兆円を軍事費に使う」と言っている。これに女性たちは怒り、自分たちがより大きな被害にあうに違いないと直感しました。勉強して、それぞれの立場で言葉にしていきましょう。周りの人に言うだけで違うんです。皆さんと一緒に戦争を阻止しようと思います。

## 中野晃一さん（市民連合運営委員・上智大学教授）

抑止とは、相手に恐怖を与えることによって戦争を未然に防ぐという発想で、軍拡によって安全だという発想はここにありません。ところが現実には、威嚇をすれば、相手も当然、威嚇する。そのにらみ合いの末に戦争が起きてしまうのです。そこで最低限必要になるのが「安心供与」です。こちらから戦争をしかけることはないと明確に伝えることが重要です。

「憲法9条で国が守れるのか」と言われることがありますが、9条は安全保障に大きく貢献しています。中国など近隣諸国に対して戦後の日本が与えた最大の「安心供与」として機能してきました。いまこそ憲法の本義に戻って、国民の生命、自由、幸福を守るために立憲主義を立て直していくことが大事です。

## 第12回「九条の会東北交流会」開かれる 「東北首長連合」から鈴木俊夫共同代表が報告

（東北6県市町村長九条の会連合事務局・全国首長九条の会事務局の相原研一さんの寄稿です）

第12回「九条の会東北交流会」が9月9日、青森市で開催され、オンライン139名を含め240人が参加、渡辺治先生の講演と東北6県からの活動報告、「東北6県市町村長九条の会連合」の報告に聞き入りました。

開会のあいさつは、開催担当県の「青森県九条の会」鹿内博共同代表（青森県議・元青森市長、「東北6県市町村長九条の会」会員）が行いました。鹿内氏は「9月7日は長沼ナイキ基地訴訟で、札幌地裁が自衛隊違憲判決を出して50年の日にあたる。国の控訴により、その後憲法判断をした一審判決に踏み込まず、住民の「訴えの利益がない」として裁判は終結した。いま、九条破壊が進められているが、この判決の重みを大切に、運動を広げよう」と述べました。

続く講演で渡辺氏は、「岸田首相は総裁任期中に何としても改憲をやると意気込んでいる。安倍首相ですらできなかった明文改憲をやって、歴史的な総理となる決意だろう。そのために憲法審査会を維新にお先棒を担がせて動かしている。昨年の通常国会で16回、秋の臨時国会で7回、先の国会で16回衆議院では開かれている。」「中国はフィリピン、ベトナム、インドネシア、インド、日本と領土紛争を抱えているが、武力衝突になっていないのは日本とだけである。それは、日本に9条があるからだ。」「いま、台湾有事ということと危機感を煽っているが、政府が、台湾有事の際は集団的自衛権を行使しないと明言すれば状況は変わってくる。」「九条の会は10月5日の大集会をステップにして、全国に大運動を呼びかけた。大軍拡に反対し、憲法改悪阻止のために創意ある運動を行うことを東北の九条の会に期待する。」「と呼びかけました。

次に、「東北6県市町村長九条の会連合」の鈴木俊夫共同代表（元秋田県湯沢市長）が、全国の首長の会の動向を含め、東北の状況を発言しました。鈴木氏は、昨年11月全国総会が開かれ、東京都下の3人の現職区市長が参加したこと。3月13日には「安保三文書」の撤回を求める声明を発出したこと。5月28日の九条の会全国交流会には全国首長の会から11名が参加、私も「首長が9条を守るために活動していることは励みになるという感想を頂いている」と発言したことなどを報告。一方で「東北首長連合」の会員が増えていることにふれ、そうした中で宮城では準会員や会友制度を設け、首長の親族や首長の会を支援する人の入会を勧め、亡くなった会員のご遺族の方が準会員になっていただいている、と報告しました。

最後に、東北地方各県で力強い大きな闘いの輪を作っていく決意を確認、アピールを採択し、次回開催担当県の宮城から板垣乙未生みやぎ憲法九条の会事務局長が閉会の挨拶を行い終了しました。次回13回の開催は宮城が担当することになりますが、ほかの5県とも協議をしながら、準備をすることになります。